

◆司会

それでは、ただ今から市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いたします。

◆市長

はい。今日は、まず最初に歴史博物館の話をさせていただきたいと思います。7月23日にプレオープンをしましたが大変、皆さま方にも多くの報道をしていただいたおかげさまもあって想定以上の、9月4日までに1万 5000 人を超える皆さまに歴史博物館に訪れていただくことができました。どうもありがとうございました。目玉は戦国時代の道と石垣の遺構の1階の部分を無料で公開をすることにあつたんですけども、それだけではなくて、博物館に来ればこの期間中、何かをやっているということを目標に、文化振興財団が毎週開催している学芸員による分かりやすい歴史トークとか、歴史にちなんだ工作体験といったイベントも、夏休み期間中大変好評だったということでもあります。これからも静岡市の歴史を巡るしずれきガイドツアーや、高校生、大学生からも参加者を募る、静岡の町の歴史を演劇で伝えようなど、来年1月のグランドオープンに向けて、歴史博物館ファンを増やすためのイベントを継続的に開催していきたいと思っております。このプレオープンでいらっしゃった方々の意見を聞くということも大事であります。学芸員の説明がとても面白く分かりやすかったというふうにおっしゃっていただいて、学芸員も意を強くしております。一方、いわゆる順路っていうんですか、動線が分かりづらいよという指摘もいただいておりますので、それは改善をしていきたいと。つまり、このプレオープンを機に多くの市民の皆さんにチェックをもらうと。そして、そこでいろんな意見を集約して、それをグランドオープン以降につなげていきたいなというふうに思っております。そのグランドオープンの日が2023年の1月の13日の金曜日に決定をいたしましたので、今日、発表をいたします。当日は開館式典を開催し、その翌日には記念イベントの開催も予定をしております。今川氏、家康公などの基本展示と併せて、家康と駿府と題しました企画展もスタートする予定であります。その内容については改めて発表いたしますが、静岡市の歴史を後世まで伝える歴史探究、多面的な学びの場を提供する地域学習、そして集客の核となり地域へいざなう観光交流、これが役割の三つの柱でありますけれども、この役割を体現するような、そんなグランドオープンのイベントにしてまいりたいと思いますので、ご期待をください。以上でございます。それでは今日の話は、経済の活性化に資するための、たび Tabi オクシズラリーを開催します

ということです。オクシズを訪れる皆さんをおもてなしし、喜んでいただく、そしてオクシズ全体を盛り上げていく、そんなイベントを公民連携で準備をしています。ご承知の通り、静岡市の中山間地域であるオクシズは、大井川上流部の井川などの奥大井、藁科川上流部の清沢、大川などの奥藁科、安倍川流域の梅ヶ島、玉川などの安倍奥、そして、興津川流域や両河内や、由比の入山などの奥清水の四つのエリアに分けられます。今回のキャンペーンでは、この四つのエリアにある市営温泉や市営キャンプ場をはじめ、民間の皆さんにもご協力をいただき飲食店や加工物販施設など、およそ 80 カ所をラリーポイントとして設定をいたしました。今週末から始まるわけですが、9月17日から比較的長い期間の11月30日までを実施期間とし、このラリーポイントを回って応募いただくと、抽選で合計1万名に梅ヶ島温泉の共通宿泊券およそ2万円分などの商品が当たります。さらに、奥大井、奥藁科、安倍奥、奥清水の四つのエリアのスタンプをそれぞれ1個ずつ集めて応募をすると、オクシズ材を使ったデザインチェア、これ、特製の、天使の椅子が当たる4エリア賞という特別の賞も用意しております。

◆市長

加えて、今回のキャンペーンでは街中で開催されるイベントにもラリーポイントを設けることで、より多くの方にキャンペーンを知っていただく機会をつくり、その後、オクシズにも足を運んで、より多くの方にご参加いただけるよう市街地からオクシズ地域への回遊も図ってまいります。オクシズには現在実施中の、PayPayポイントが最大 20%戻ってくる、買おう！食べよう！楽しもう！ 静岡市応援キャンペーンの対象に当たる店舗もたくさんありますので、これから迎える行楽シーズンに、ぜひ多くの皆さんに景色や温泉、グルメなど盛りだくさんのオクシズへ足を運んで、感染には気を付けながらも秋の行楽シーズンを楽しんでいただきたいというふうに思います。なお、スタンプラリーで当たるギフトは、数々のオクシズをもっと好きになるというギフトです。今回の、たび Tabi オクシズラリーをきっかけに、多くの皆さんがオクシズを回って当てて、そしてオクシズのファンが増えることによって中山間地域、さらには静岡市の経済の活性化につながることを期待しております。今日は、私からは以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表につきまして皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか、よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思います。産経新聞さん、よろしくお願いたします。

◆産経新聞

よろしくお願いします。産経新聞です。まず1点目はですね、今月27日に予定されています安倍晋三元総理の国葬の出欠についてなんですけれども。市長自身は出欠、出られる、出られない、その理由も含めて教えてください。

◆市長

出席をいたします。ただし、私人として参列をしたいというふうに考えております。安倍元首相は長年にわたり大きな功績を外交面はじめ挙げておりますし、また地方創生にも努力をしていただきました。しかしながら、志半ばで凶弾に倒られた安倍元首相、心残りだったろうと思います。人として謹んでお悔やみを申し上げ、そして弔意を示してまいりたいというふうに思っています。

◆産経新聞

その関連ですけれども、私人としてという公費は使わないというお考えでよろしいですか。

◆市長

はい。いろんなご意見がある中で、公費の支出はいたしません。

◆産経新聞

では、その関連で、もう1点だけなんですけども。弔意を示す、例えば静岡市の庁舎とか公的機関とか、それから公立学校の、いわゆる半旗というのは掲げるお考え、方針というのはどうでしょうか。

◆市長

これも、現時点では未定です。

◆産経新聞

いずれもってことですよね。

◆市長

教育委員会のほうから特段、報告は受けておりません。

◆産経新聞

もう1点なんですけれども、先日、痛ましい事故が起きた牧之原の認定こども園の話なんですけれども。政府のほうに通園バスを運行している施設を対象に一斉点検を求めていますけれども、認可権限を持つ市としても該当の園に、施設に対して具体的にどのような注意喚起というか点検をされる考えでしょうか。

◆市長

今回の事件、私自身も大変心を痛めております。ご遺族の方の心情いかばかりかと思うにつけ、深い哀悼の意を表したいと思えます。さて、今回の事件、起きてはならないことが起きてしまいました。静岡市としても重く受け止めております。そして質問の趣旨でありますけれども、報道を受けて、すでに事故発生の翌日となる9月の6日には市内の認定こども園などに対して安全管理の徹底について文書を発送し、注意喚起をいたしました。さらに今週月曜日の9月12日には、静岡市が指導監査を担っている市内の210の園に対して、送迎時のバス利用の有無などを調べるための調査票を発送いたしました。この調査結果を踏まえて、バス利用のある園への実地調査を速やかに実施するべく準備を進めております。この一連の調査を終え、バスの送迎だけではなく登園、降園の安全管理について改めて不備がないかを確認をし、必要に応じて改善に向けた指導を行っていくことはもとより、命を守るという観点で、さらにできる対策がないかも検討してまいりたいと考えております。

◆産経新聞

ありがとうございます。

◆司会

それでは、幹事社質問、2問大きくいただきましたので、一問一問それぞれご質問を皆さまからお受けをしたいと思えます。1問目のご質問に対する関連質問。では、朝日新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞です。よろしくお願いいたします。今の、国葬についてなんです私費で、私人のお立場で出席するということでした。ちょっと細かい点で恐縮ですが、当日は日帰りで行かれるのでしょうか。それとも宿泊されるのでしょうか。

◆市長

日帰りです。

◆朝日新聞

公用車を使いますか。それとも、公共機関使われたりしますか。

◆市長

公共機関です。

◆朝日新聞

公共機関ですね。分かりました。それとあとは、すいません、弔意の示し方なんですけども。これ、市教委ではなくて市の、市長の所轄なるんですが、要するに市庁舎での半旗の、弔旗の掲揚っていうのはあるんでしょうか。

◆市長

私は今のところ考えておりません。

◆朝日新聞

弔旗は立てない、と。

◆市長

先ほど申し上げた通り、現時点では未定であります。

◆朝日新聞

現時点では未定って言いますけど、いつごろにそれは決定するんですか。

◆市長

これは、しかるべきときまでには決定したいと思っております。

◆朝日新聞

あと、学校側のほうの対応っていうのは、これはどうなんですかね。今日、市教委の方いらっしゃいますかね。

◆司会

すいません、今日は、教育委員会はこちらには来ておりません。申し訳ございません。

◆朝日新聞

そうですか。学校側の対応と、いわゆる市長機関としての対応っていうのは同じふうになるんでしょうか。

◆市長

教育長とも、その辺りをきちっと議論をしていきたいと思っております。

◆朝日新聞

市教委については今のところ立てる、立てないについての意思表示っていうのはあるんでしょうか。弔旗の掲揚。

◆市長

教育長と話している限りでは、半旗を立てるべきではないというふうに思っています。

◆朝日新聞

教育長からは、半旗は立てるべきではないと。

◆市長

教育長からじゃなくて、私との話の中ではね。そこは慎重に判断をしてまいりたいと思います。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

すいません、今の、私人としての参加ってことですけど、これは案内状等はどういうところから届いたかという。

◆市長

届きました。

◆読売新聞

どこからでしょうか。全国市長会とかじゃなくて。

◆市長

岸田総理大臣からです。

◆読売新聞

岸田総理大臣から直接、案内状が届いたということが。それは市長宛てにとということですね。

◆市長

そうです。

◆読売新聞

分かりました。

◆司会

すいません、ちょっと補足をさせていただきます。

◆岡本

お世話になります。秘書課の岡本でございます。ただ今の件ですけども、全国市長会を通じて岸田総理のお名前で月曜日に郵送で届きました。以上です。

◆司会

よろしいでしょうか。そのほか、いかがでしょうか。では、1問目につきましては以上ということで。2問目に関連するご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。では、幹事社質問の質問も以上とさせていただきます。では、そのほかの皆さまからのご質問をお受けいたします。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。朝日新聞さんが昨日、記事にもされていましたが日曜日の県の難波理事による講演会、清水で行われた件についてです。難波さんは県の立場ではなくて個人として講演依頼に応じたとおっしゃっていたんですが、幾つか目立つ発言がありました。一つ目、昨年度のデジタル田園都市国家構想推進交付金について。県は6本提案して5本通った、浜松市も4本通っている。ほかに藤枝市など周辺市も幾つか交付を受けているのに静岡市はゼロだったと。静岡市の、この交付金獲得に対する消極姿勢を指摘されました。これについて、市長、何か反論があるようでしたらお願いします。

◆市長

決して消極的なわけではありません。デジタル田園国家構想事務局に一人、若手の職員を送って情報収集をしております。TYPE1、TYPE2、TYPE3と、さまざまなメニューがあり、該当しそうな事業は全て今のところ新型コロナの臨時交付金で本市は対応をしております。また、このことのみならずGXにも熱心でありますので、脱炭素先行地域のことについては、われわれは鋭意、応募に応じ採択をされました。国のメニューたくさんありますけども、今後も、このデジタル田園都市の関係でも新たに募集があるというふうに報告を受けておりますので、搭載できる事業は鋭意、応募をしてまいりたいというふうに思っております。

◆NHK

講演会の質疑の時間でもですね、どうして静岡市だけデジタル田園都市の交付金がゼロだったのだろうかと重ねて聞く質問が出たのに対して、難波さんは発表から応募が決まるまでの時間が短かったと。こういう場合には上から号令を掛けて、やれという感じでやらないと動かない。下から上がってくるのを待つのではなくて、これは大事だ、とにかく交付金を取りにいこうという指示があるかどうかだと。やはり、重ねて静岡市のリーダーシップに問題があったのではないかという趣旨の回答をされています。これについても、市長、何かおっしゃりたいことあればどうぞ。

◆市長

難波さんはとても誠実な方なので、そうおっしゃられたことは謙虚に受け止めますが、私自身は、これ、やれという号令を掛けました。その結果、先ほどのようになったということを私は受け止めております。

◆NHK

分かりました。そして、産業政策についても言及ありまして。もう、産業政策が静岡市はゼロで考えられないと。浜松市は経済産業政策を徹底的にやっていると。あそこはEV化で自動車産業が非常に厳しい状況で、変化しないと衰退するのが見えているから徹底的に新しいことをやっていかないといけないんだというふうに、産業政策に対する静岡市の消極姿勢と浜松市の積極姿勢を対比する発言をなさいました。これについても、市長、何かありましたら。

◆市長

先ほどのデジ田のお話と同じでありますけども、やっぱり、いろいろな経済政策、私どももしておるのは貴社もご存じの通りだろうというふうに思います。浜松市と比較して、これがどうこうということではなくて、やはり私たちは第3次総合計画の中で、しっかり産業経済対策もしているというふうに理解をしておりますので、ぜひ、その辺りはご理解いただきたいなというふうに思います。

◆NHK

あと、これは朝日さんも書かれていますけれども、サッカースタジアムについてもスタジアムの場所の選定だけを市がしていると、これは私は不十分だと思うと。これだとサッカースタジアムという単体施設になって、複合的な視点が入らないという指摘をされていますが、これについてはいかがでしょう。

◆市長

これも、私どもはビジョンとしては複合的なスタジアムの研究を進めております。ただし、やはり、まずは場所が決まらなければいけないだろうということので検討委員会を発足しておりますので。まずは場所を決めてから、その場所の制約の中でどんな、わくわくするようなスタジアムができるのかという検討に移りたいと思います。バックキャストで考えてまいりたい。

◆NHK

すいません、長くなりますが。難波さんは私どものぶら下がり取材に対して、私は今の立場だとリニアと土石流が担当で、それ以外の仕事はしにくい。今日の清水の町をどうするかという話も私の今の仕事とは離れている。今の立場だと非常に限りがあるのが事実だと。清水、静岡市を良くしたいという気持ちはあるけれども今の役職ではできないという、もどかしさのようなものをおっしゃっていました。例えば、市長のほうから難波さんを本田副市長の後任として迎え入れて取り込んでしまおうとか、そういうことはお考えになりますでしょうか。

◆市長

これまでも港湾整備等々、難波さん、副知事の時代に大変ご尽力をいただきました。信頼関係も構築をしているというふうに思っています。そういう中で、そういうご発言をされたということは真摯に受け止めて、また私どもも当事者として、それぞれの役割分担として難波さんが土石流とリニアのことを一生懸命やっていらっしゃるように、私も私の持っている役割をしっかり果たしたいというふうに思っています。

◆NHK

仮に、静岡市役所に関わる仕事に就きたいということを明言されたら、それは歓迎されますか。

◆市長

それは仮の話なので、今の時点では分かりません。

◆NHK

逆の考え方をしますと、特別職でもない一県職員である難波さんが現市政の評価ですとか体制変更の必要性についての言及など、かなり政治的な発言をされたと私は受け止めていますけれども、これに対して抗議をするですとか、何か有力者を通じて難波さんの言動を抑え込みたいですとか、そういったお気持ちはありますでしょうか。

◆市長

それはありません。議論を深めていくということは必要でありますのでね。私は当事者であり、責任を持っていますので、いろんな意見に傾ける姿勢は大事だろうというふうに思ってます。

◆NHK

県職員として、あるいは一県職員がいろんな発言を静岡市に対してしても、それは自由でいいだろうということですかね。

◆市長

それは、貴社はどう思われますか。

◆NHK

それは私が判断する立場にないので、どう思われるかを。

◆市長

私は、先ほど申し上げた通りです。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

今の質問に関連して、というわけではないんですが。今年の7月にですね、一部報道に対して市長がぶら下がり、来年春の市長選について、しかるべきタイミングのときに考えを表明したいと、こう発言されていますが。あれから2カ月近くたちまして、そのタイミングが来たというふうにお考えでしょうか。お聞かせください。

◆市長

あれから2カ月ぐらいたったんでしょうか。これから、そのタイミングを見計っていかうというふうには考えています。

◆司会

よろしいでしょうか。そのほか、いかがでしょうか。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。すいません、ちょっとこれは確認なんですが。昨日、県庁にJR東海の社長さんがおいでになったんですが、この際、ついでに市長が会われたとかいうのは昨日はなかったんですか。

◆市長

すいません、私、昨日、東京出張だったんです。

◆読売新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。第一テレビさん、お願いいたします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビと申します。今の関連でございまして。出張だったってということで、なかなかあれかと思うんですけども。トップ会談行われまして、県とJR東海の間でも2年ぶりのトップ会談、平行線のまま終わったっていうかたちですけども、静岡市にも関係ございますので、市長の昨日のトップ会談の受け止めいただければと思います。

◆市長

これまでも申し上げている通り、トップ同士が膝を突き合わせて会談をするということは大事なことだろうというふうに思っていますので、約2年ぶりの会談が行われたということは意義があったというふうに受け止めています。

◆静岡第一テレビ

いわゆる平行線のままで終わってしまったってということについては、いかがでしょうか。

◆市長

期待をすると、もう合意形成のプロセスに双方とも入っていただきたいなということをお願いしております。

◆静岡第一テレビ

ありがとうございました。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

SBSです。新型コロナが19日連続ですかね、県内では減少しているんですけども、市内の状況と今の受け止めと、今後の方針についてメッセージあればお願いします。

◆市長

新規の陽性者の数が2週間以上連続して前の週の同じ曜日よりも減少をしております。ですので、ピークアウトはしたのではないかというふうに思っております。ただし、依然として高い水準にあることは事実ですので、今後の動向を注視していきたいというふうに思っています。

◆司会

よろしいですか。そのほか、いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

すいません、もう一つ。スタジアムについて、もう少し伺わしてください。前回の会見での市長の、スタジアムについて民間主導で建設という発言についてなんですけれども、ことの外エスパルスサポーターの方がいろんな受け止め方をしたようです。私も、もうちょっとちゃんと聞かなきゃいけなかったなと思い直したんですが。民間主導で建設すべきものなのだとしたら、どうして静岡市がサッカースタジアムのあるまちづくり検討委員会という場所で、市のほうで場所をまず決めようという議論をするのか、それを理屈を説明していただけますか。

◆市長

民間の方を含めて、協議の場をつくるというのは行政の責任だろうというふうに思って検討委員会を呼び掛けました。

◆NHK

民間主導でつくるのであれば当然、場所という大前提のことも民間が考えればいいことだというふうにも思ってしまっているのですが、そこをどう理解したらいいのでしょうか。

◆市長

しかし、公民連携事業。これは、ほかのことにも当てはまりますけれども、民間の主導することに対して私たちは下支えをしていくという役割があるかと思いません。先ほど申しあげました脱炭素先行地域で、これから静岡市は公民連携事業をしていくんですけども、やはり静岡市が高く評価された点は、これが民間企業主導で、将来の水素ビジネスということを清水港周辺地区でカーボンニュートラルと両立をさせてビジネスチャンスをつかんでいくと。その下支えを行政がするということが事業があるわけですね。ですので、やっぱり、民間の皆さんが将来これで潤ってもらうという環境整備をするということは、行政の大事な役割だろうというふうに思っております。

◆NHK

私、市長がずっと、官民連携でとおっしゃっていたのが、前回の会見で、建設は民間主導でとおっしゃったのが何か考え方変わったのかなと受け止めてしまったんですけれども。市長のおっしゃる公民連携というのは、環境整備は公、官のほうでして、建設自体は民間のほうでしてっていう役割分担のことだということですかね。

◆市長

はい。そう受け止めていただきたいと思います。

◆NHK

あと、民有地だったらなおさらということもおっしゃいましたけれども。民有地を市が買って公共施設を造るというのは、普通に行政プロセスとしてあることだと思うんですけれども。市長は民有地である以上、民間が主導すべき、つまりENEOSが建設を主導すべきという考え方なんでしょうか。

◆市長

そういうことではないです。まず、民有地、固有地、さまざまな候補地がある中で、どこをベターだという結論を出すかが、この検討委員会の目下の議論でありますので。その議論がどこをベターと選んだのかと終わった後に、どんな公民連携ができるのかということでもあります。と、同時に、ご存じの通り私たちは総合計画で財政規律を堅持しつつ、さまざまな事業を進めてまいらなければいけないので、このことも想定をしながら、どう民間主導のフレームワークを下支えできるか考えてまいりたいと思ってます。

◆NHK

フレームワークはこれからだと思いますけれども、市長の念頭にある理想型は、長崎でジャパネットたかたさんが進めているような、ああいった民間、地方の大プロジェクトになってくれればいいなという期待でしょうかね。

◆市長

いろんな研究をしております。長崎の例もありますし、大阪吹田の例もあります。

◆NHK

ちなみに先ほど。難波さんの講演の後のぶら下がりで難波さんは、県や市も応分の負担というか、みんなでやりましょうというときに県は知りません、市は知りませんという話にはならないということもおっしゃっていますが、この辺りはどう思われますか。

◆市長

もちろん、その通りです。それは県と協議をしてみたいと思っています。

◆NHK

一定の公金負担もあるだろうと。

◆市長

県がどのぐらい考えてらっしゃるんでしょうね。

◆NHK

分かりました。ひとまず結構です。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

◆SBS

ごめんなさい、すいません。

◆司会

SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

すいません、ちょっと、さっきのコロナの関連で思い出したものがあまして。失礼しました。市長か所長さんにお答えいただければと思うんですけども。学校が再開して再拡大が懸念されていたと思うんですけども、再開したとして前の週を下回り続けている、その理由をどう分析されているのかっていう見解。

◆市長

学校が再開されて。

◆SBS

再開ってことで再拡大が懸念されていたと思うんですけども、それでも前の週を下回り続けている現状っていうのをどう分析。理由ですね。どう分析されてるのかっていうのは、見解があれば教えていただけますか。

◆市長

分かりました。保健所長、今日、同席していますので、そのところ答えていただきますが、私の受け止めでは感染対策が、きちっと教育の現場でもなされていた、先生が努力をしてくださった、そのことによって功を奏しているのではないかなというふうに思っております。

◆田中

保健所長の田中でございます。補足をさせていただきます。以前からですね、中学生、高校生、オミクロンの当初、かなりはやったということもありますが。特にこれから夏場を越えて秋、受験シーズン迎えるということで、相当に教育の現場では受験ということもありますので力を入れてるんじゃないかなっていうふうに考えております。また、ワクチン接種率も非常に追い上げをしまして、かなり集団免疫として持たれる方が増えていると。ただ、先ほど市長からもありましたように、今現在、経済とのバランスを取る中で一定の規制緩和等もしておりますが、そういった中、順調に今、感染者のほうも下がっているということなんですが、やはりここで油断することがないようにということで引き続き。先日もアナウンスをいたしました。発熱外来を確保したりということで、そういった対策も併せて。こういった感染症の落ち目になっているところなんで、ここで思い切ってたたいていくということで追加の対策をしているという状況にあります。ただ、分析につきましては学校始まりまして、そろそろ2週間ということでもありますので。現在、感染者の動向であるとか年齢分布であるとか、その辺りを8月末と9月上旬、今は比較のための分析をしているところでありますので、また分かりました時点で必要があれば公表ということを考えております。

◆SBS

ありがとうございます。あと、市長、ちなみに、注視していきますっていうかたちでおっしゃっていたんですけども、継続するものは継続するでいいのかなと思うんですが、具体的な抑え込みの対策、今考えているものっていうのがあれば教えていただけますでしょうか。

◆市長

とにかく、先ほど発表したようにワクチンが、オミクロン対応が国のほうが供給してくれますので、それをスピード感をもって準備をしてみたいというふうに思っています。

◆SBS

やはり、ワクチンにこだわり持つってということですね。分かりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、本日の記者会見はここまでとさせていただきます。次回は9月の26日の月曜日11時からの予定となっております。本日はありがとうございました。

◆市長

どうもありがとうございました。